

小論文 問題用紙 (No. 1/2)

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

現代の日本で生を営んでいる私たちは、日常を安全かつ快適に暮らすために必要とされている、ほぼありとあらゆるモノを手に入れることができる時代に生きています。

半世紀前の1960年代において、人がうらやむような豊かな生活の象徴として崇められていた「三種の神器」とは、すなわちテレビ、洗濯機、冷蔵庫の3つの家電でしたが、今日では、これらの家電を保有しない家を見つけることが難しい状況になっています。

たった半世紀のあいだに「憧れの対象」となっていたモノが、すでにあまりなく行きわたっているのが、現在という社会です。このような時代をかつて人類は経験したことがありません。私たちは、すでに必要とされている、ありとあらゆるモノを手に入れることができる時代に生きています。

しかし一方で、このような「恵まれた状況」にありながら、多くの人々は、なんとも名状しがたい欠落感を抱えながら生きています。人類の長年の夢であった「差し当たって、今日を生きるのに大きな心配がない」という状況が、多くの人にとって現実のものとなったにもかかわらず、何かが満たされていない、人生において何か本質的に重要なものが抜け落ちていくような感覚です。

物質的な欠乏という課題がほぼ解消されてしまった世界において、人はどのようにして「生きる意味」を見出していけばいいのでしょうか。この問題をおそらく歴史上、最初に指摘したのはドイツの哲学者、ニーチェでした。

ニーチェは150年前にすでに、現代人が「意味の喪失」という問題に陥り、ニヒリズムに捉えられることを予言しています。

ニヒリズムとは何でしょうか。ニーチェは次のように定義しています。すなわち「何のために、という問いに対して答えられないこと」だと。「何のために」という問いへ答えられない、つまり「意味が失われた状態」こそが、ニヒリズムの本質だ、ということです。

私たちは「モノが過剰で、意味が希少な時代」を生きています。「モノ」がその過剰さゆえに価値を減殺させる一方で、「意味」がその希少さゆえに価値を持つというのが21世紀という時代です。

このような時代にあつて、相も変わらずに「役に立つモノ」を生産し続けようとするオールドタイプは価値を失うことになる一方で、希少な「意味」を世界に対して与えるニュータイプは大きな価値を生み出していくことになりました。

「モノの過剰化」はまた、「問題の希少化」という事態を生み出すことになりました。モノが過剰に溢れかえる世界にあつて、私たちは日常生活を送るにあたつて、すでに目立った不満・不便・不安を感じることはなくなっています。これはつまり、今日の日本ではすでに「問題が希少化」していることを示しています。

先述した通り、ビジネスは「問題の発見」と「問題の解決」が組み合わされることによつて初めて成立します。したがつて、両者のうち「少ない方」が常に社会的なポトルネックとなり、そのポトルネックを解消できたプレイヤーには大きな価値がもたらされます。

「問題」と「解決策」のバランスについて、過去を振り返ってみれば、原始時代から20世紀後半までの長いあいだ、常に過剰だったのは「問題」であり、「解決策」は希少でした。多くの人々が、物質的な側面で大きな「不満・不便・不安」を感じており、だからこそ、それらの問題を解決できた個人や組織に富が集中したのです。

当然のことながら、このような時代においては「問題を解ける人」が労働市場で高く評価され、高水準の報酬を得ることになりました。

しかし、ありとあらゆるモノが過剰に溢れかえることで「問題」が希少化してくると、ポトルネックは「問題の解決」から「問題の発見」へとシフトし、「解決能力」は供給過剰の状況に陥ることになります。

このような世界において、かつて高く評価された「問題解決者」プロブレムソルバー」はオールドタイプとして大きく価値を減損することになる一方で、誰も気づいていない問題を見出し、経済的な

小論文 問題用紙 (No. 2 / 2)

枠組みの中で解消する仕組みを提起する。「課題設定者」アジェンダシエイパー」が、ニュータイプとして大きな価値を生むことになるでしょう。

「モノの過剰化」と「問題の希少化」というメガトレンドの掛け合わせはまた、人類がかつて経験したことのない未曾有の状況を生み出すこととなります。それは「意味のない仕事」クソ仕事の蔓延」という事態です。

私たちは一般に「仕事」というものを「価値あるもの」と考えます。だからこそ多くの人は「無職」という状況になんらかの後ろめたさを感じるわけです。失業率の上昇は対処すべき由々しき社会問題として取り上げられます。

しかし、すでにモノが過剰に行きわたり、解消すべき問題が希少化しているのであれば、むしろ「失業」は生産性向上の末に達成された歓迎すべき状況だと考えるべきだということになります。

そして実際、昨今実施されている各種の統計や調査では、大多数の人々は、自分の仕事は社会に自分の価値ももたらしていない、と感じていることがわかっています。これは「モノの過剰化」や「問題の希少化」というメガトレンドが必然的にもたらした結果と言えます。

そもそも、本来の仕事が「有用なモノを作る」あるいは「重要な課題を解決する」ということであれば、モノが過剰にあり、問題が希少となっている社会では、仕事の本来的な需要は減少するはずですが。しかし、私たちの労働時間は100年前とほとんど変わっていません。

20世紀前半に活躍したイギリスの経済学者 J・M・ケインズは1930年に著した論文で「100年後には週に15時間働けば十分に生きていける社会がやってくる」と予言しています。

ケインズはまさに、生産性が向上し、社会に物的資本が蓄積されることで、労働需要は減っていくだろうと考えたわけですが、しかし、この予言は実現せず、私たちは100年前と変わらない時間を労働に割いています。

求められるニーズが一定であれば、生産性の向上に伴って投入されるべき労働量は減少するはずですが、一向にそうなっていない。このロジックはどこに破綻があるのでしょうか？

結論から言えば、私たちの多くは本質的な価値や意味を生み出すことのない「クソ仕事」に携わっている、ということになります。労働に関する需要が減少しているにもかかわらず、労働の供給量が変わらないために、本来的な意義を有さず、社会にとって意味のないクソ仕事に多くの人が携わって生きていかざるを得ない、というのが現在の社会なのです。

このような世界にあって、目的や意味を明確化することなく、ただひたすらに生産性を求めて鼻の成果を追求するオールドタイプは、さらなる「クソ仕事」を作り出して周囲のモチベーションを破壊し、自らも「無意味の泥沼」へと陥っていくことになるでしょう。

一方で、常に「仕事の目的」や「仕事の意味」を形成し、本質的な価値を言語化・構造化できるニュータイプは、人材を惹きつけ、モチベーションを引き出し、大きな価値を生み出すことになるでしょう。

出典：山口周『ニュータイプの時代』ダイヤモンド社、二〇一九年、二二頁〜二七頁

問一 オールドタイプとニュータイプの差異について、二〇〇字以内で説明しなさい。

問二 「すでにモノが過剰に行きわたり、解消すべき問題が希少化している」とする筆者の見解に八〇〇字以内で自由に考察を加えなさい。

I 次の英文を読み、各設問に答えなさい。英文は[I]から[VI]の6つのブロックに分けられています。(30点)

大問 I は著作権の都合上、掲載不可です。

大問 I は著作権の都合上、掲載不可です。

2024 年度経済学部  
高大接続入学試験、海外帰国生等特別入学試験  
英語 問題用紙 (No. 3)

II 次の英文を読み、各設問に答えなさい。英文は[I]から[VII]の7つのブロックに分けられています。  
なお、\*のついた語句には、文章の末尾に注があります。 (30点)

[I] Food Bank Kanagawa is on the front lines of reducing food loss and waste by helping those in need. Based in Yokohama's Kanazawa Ward, the nonprofit was established in 2018 through a partnership of 12 organizations including consumer-cooperative-affiliated grocery delivery services, the prefectural branch of \*the Japanese Trade Union Confederation, and the Yokohama YMCA. Working with food manufacturers and local citizens, it strives to salvage wholesome, edible surplus food and redirect it to disadvantaged residents.

[II] In its first year, the food bank recovered 46 tons of food, a drop in the bucket compared to the amount Japan wastes annually. It steadily increased this number, with an unexpected boost coming from the onset of the COVID-19 pandemic. Society going into lockdown produced over-abundant food items, everything from single-serve milk drink boxes for school lunches ( A ) high-end ingredients used at restaurants or hotel kitchens. Amid this surplus, Food Bank Kanagawa in 2022 salvaged 350 tons of food, seven times what it recovered in its first year of operation.

[III] However, Food Bank Kanagawa's director Fujita Makoto insists that the amount is still ( B ) close to being enough. "We can't keep up with ballooning demand," he declares. Fujita explains that the three years of the pandemic have pushed more vulnerable people into poverty, particularly part-time and irregular workers, who have seen their incomes shrink as businesses scaled back their operations. Inflation has added to the dilemma, with a steady rise in prices for daily necessities since 2022 forcing more and more people to turn to the food bank for help.

[IV] Fujita points out that demand for rice, a staple of the Japanese diet, has increased sharply. In 2022, food companies and households donated 120 tons of the grain, which although a significant amount was still below what the food bank needed. To make up the shortfall, the organization had to dig into its own \*coffers, spending more than half of the ¥20 million in financial support received from governmental and other sources to procure rice and other food items.

[V] The cooperation of major donors like food companies is ( C ) to the food bank keeping up with the demand of its users. Manufacturers that started partnering with Food Bank Kanagawa in 2022 include Maruha Nichiro, a seafood firm that donates boxes of frozen foods damaged in transit, and Yamazaki Baking, a bread maker that contributes around 100 loaves a day. Fujita has high expectations that other manufacturers will follow their examples and support the organization's efforts.

[VI] Maruha Nichiro's support of the food bank is part of its medium-term management goal of cutting food loss by half over a 10-year period to 2030. Shimura Haruka of the firm's corporate planning department sustainability group says that tackling food loss is ( D ) mounting importance from a social and environmental perspective, while also making sense from a business standpoint. "Investors are putting greater weight on initiatives for achieving the UN Sustainable Development Goals and similar objectives," she says. "This \*dovetails nicely with the company's efforts to fight waste."

[VII] Fujita sees fostering partnerships with food companies as a "win-win situation" for everyone involved. Shimura echoes this sentiment, saying that donating items deemed unsuitable for sale plays an important role in reducing food loss. However, she stresses that to achieve a broader solution to the issue, the government must work with manufacturers, distributors, and retailers to reach a consensus on the handling of damaged goods, including allowing salvageable items to be sold.

the Japanese Trade Union Confederation 日本労働組合総連合会  
coffers 金庫 dovetails ~とつながり合う

2024 年度経済学部  
高大接続入学試験、海外帰国生等特別入学試験  
英語 問題用紙 (No. 4)

1. 空欄 (A) ~ (D) に入るもっとも適切な語を、(1)~(4)の中から一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(2×4=8 点)

- (A) (1) by            (2) of            (3) with            (4) to  
(B) (1) anywhere    (2) nowhere      (3) everywhere    (4) somewhere  
(C) (1) crucial      (2) hostile        (3) serious        (4) sustainable  
(D) (1) at            (2) for            (3) of            (4) under

2. 本文の次のそれぞれ指定されたブロックについて、その内容にもっとも合致しているものを、(1)~(3)の中から一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(3×4=12 点)

[1] ブロック I・II

- (1) フードバンクかながわは、貧困層支援と食品廃棄ロス削減を共に目標に掲げた新興企業である。  
(2) フードバンクかながわは 2018 年に設立されたが、コロナの流行が収まるまでは、余剰食品の回収量はなかなか上がらなかった。  
(3) フードバンクかながわは、地元横浜の住民や、食品メーカー、生協、労働組合ほか多くの団体と協力して活動している。

[2] ブロック III・IV

- (1) フードバンクかながわによれば、パンデミックのせいで各所の事業が縮小し、パートタイム労働者や非正規雇用労働者だけでなく、正規雇用労働者も減収に苦しんでいる。  
(2) 2022 年に、フードバンクかながわに寄付された米の量は 120 トンになるが、それでも必要な量に十分とは言えなかった。  
(3) 2022 年以降、インフレで品物の値段がどんどん上がり、政府による公的救済を求める人も増えた。

[3] ブロック V

- (1) ヤマザキパンは、2022 年からフードバンクかながわへの協力を始めた。  
(2) ヤマザキパンは、配送中に痛んだ食パンを毎日 100 斤寄付してくれる。  
(3) フードバンクかながわの事務局長は、「他の小売業者も、マルハニチロやヤマザキパンを見習わなければならぬ」と考えている。

[4] ブロック VI・VII

- (1) マルハニチロの長期的経営目標の中には、「今後十年での食品ロスの半減」という項目がある。  
(2) マルハニチロ社は、「食品ロスへの取り組みは、現在投資家が重視している点でもあり、ビジネスの観点からも、この取り組みは有益だ」と考えている。  
(3) フードバンクかながわは、「売り物にならない食品の取り扱いについては、政府が民間の関連企業に対して適切な基準を設定し、指導する必要がある」と考えている。

3. 下線部を日本語に訳し、解答用紙に記入しなさい。(10 点)

2024 年度経済学部  
高大接続入学試験、海外帰国生等特別入学試験  
英語 問題用紙 (No. 5)

III 次の各英文の下線部について、意味がもっとも近いものを(1)～(4)の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(2×5=10点)

1. He looks after his older mother.  
(1) cares (2) hates (3) likes (4) resembles
2. The three colors of the French national flag stand for "liberty, equality and fraternity."  
(1) endure (2) draw (3) represent (4) admire
3. Car exports have yielded significant profits for Japan.  
(1) generated (2) reduced (3) doubled (4) reserved
4. We want you to know how grateful we are for your kindness.  
(1) careful (2) thankful (3) generous (4) thoughtful
5. Egoist as he was, his parents loved him.  
(1) Because he was egoist (2) As he was not egoist  
(3) However he was egoist (4) Although he was egoist

IV 次の各組の英文が文法的に正しく、自然な意味をなすために、空欄に入るもっとも適切なものを、(1)～(4)の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。(2×5=10点)

1. The jackets ( ) only \$40 when you purchase it by cash.  
(1) pays (2) costs (3) sells (4) buys
2. We asked a young man ( ) a machine what he was doing.  
(1) operate (2) to operate (3) operated (4) operating
3. Write down your password ( ) you should forget it.  
(1) unless (2) so that (3) in order that (4) in case
4. I want to know the result, and the ( ) the better.  
(1) earlier (2) faster (3) sooner (4) more quickly
5. What is it ( ) being selected for the national volleyball team?  
(1) like (2) in (3) as (4) to

2024 年度経済学部  
高大接続入学試験、海外帰国生等特別入学試験  
英語 問題用紙 (No. 6)

V 次の各日本文とほぼ同じ意味になるように、カッコ内の語句を並べ替えて英文を完成させるとき、カッコ内で 3 番目と 5 番目に来るものを選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。なお、文頭に来る単語も小文字から始まっています。(4×5=20 点)

1. 私はすぐに東京にもどったが、そこでは陽子が私の帰りを待っていた。  
I immediately headed back to Tokyo, where Yoko ( 1. to 2. for 3. waiting 4. me 5. was 6. return ).
2. 顧客の多くが、その会社の説明はまったく満足のいくものではないと述べた。  
Many customers said that the ( 1. was 2. explanation 3. satisfactory 4. than 5. company's 6. less ).
3. そのような厳しい時期に、彼の救いになったのはマリアの誕生だった。  
( 1. became 2. it 3. that 4. birth 5. was 6. Maria's ) his salvation during such tough times.
4. 彼は有言実行の人なので尊敬されている。  
He is ( 1. what 2. for 3. he 4. doing 5. says 6. respected ) he will.
5. 家庭では、女性が男性の倍量の無償労働を行っている。  
At home, women ( 1. twice 2. work 3. do 4. as 5. unpaid 6. much ) as men.

I. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

全球人口在过去两个世纪里一直处于增长状态。(ア)对我们所有活着的人来说，这是正常现象，但从人类历史的长河来看，这也许只是暂时性的。

今天出生的孩子很可能会看到全球人口增长停止的那一天。今年出生的婴儿将在2080年代满六十岁，联合国的人口统计学家预计，届时全球人口将达到峰值。(中略)达峰后，全球人口将(a)逐渐减少，不会在经过一段时期的减少后稳定下来，而是走上(1) qián suǒ wèi yǒu 的下坡路。

因为大多数人口学家的展望仅到2100年，所以对那之后人口究竟会以多大速度(b)下降尚无共识。全球人口在过去一百年里(2) fānlè liǎng fān，从二十亿增长到八十亿。(イ)只要人类像现在这样生活下去的话，那么到下个世纪或下下个世纪时，人类衰退的速度可能会与我们崛起的速度一样快。

世界上的大多数人现在生活在每两个成年人生育两个或不足两个孩子的国家。如果美国现在的所有人都活过生育年龄，并以平均速度生育的话，那意味着每名女性生育约1.66个孩子。(中略)全球每两个成年人平均生的孩子少于两个，那就意味着世界人口将减少，从长远来看，每代人的数量将少于上代人。(i) Rúguǒ quán shì jiè yǔ Měiguó jīntiān de shēngyùlǜ xiāngtóng de huà, nàme quánqiú rénkǒu jiǎng zài dàyuē sānbǎi nián hòu, yě jiùshì yuē shí dài rén de shíjiān li, cóng yībǎi yì zuǒyòu de fēngzhí jiàngdào shǎoyú èrshí yì。如果家庭保持小规模的话，全球人口将继续下降。

结果会怎样？在过去两百年里，人口增长与生活水平和健康状况的巨大进步密切相关：人类寿命更长了，儿童更健康了，受(3) jiàoyù chéngdù 更高了，每周的工作时间更短了，以及许多其他方面的进步。我们的进步时代始于最近，这个时代给我们带来了抗生素的(c)发现、电灯泡的发明、与祖母视频通话，以及根除麦地那龙线虫病<sup>1)</sup>的可能性。在这段不长的时期内，人类一直在发展壮大。研究人口增长和人类进步的经济学家们(d)认为，这并非巧合。创新和发现是由人类完成的。(ウ)在一个人口越来越少数的世界，人类潜力的损失可能会给我们继续通往更美好生活的道路带来威胁。

(後略)

出典:The World's Population May Peak in Your Lifetime. What Happens Next? by Dean Spears. The New York Times, September 21, 2023 (c)2023 The New York Times Company

注1) 麦地那龙线虫病：メジナ虫症

- 問1 波線部(a)～(d)の語にピンインをつけなさい(声調符号も付すこと)。  
問2 下線部(1)～(3)のピンインを簡体字(繁体字の記入も認めるが、字体の混用は不可とする)で記し、日本語訳をつけなさい。  
問3 下線部(ア)～(ウ)を日本語に訳しなさい。  
問4 波線部(i)のピンインを簡体字(繁体字の記入も認めるが、字体の混用は不可とする)に記し、日本語訳をつけなさい。

II. 以下の日本語を中国語に訳し、簡体字で記しなさい(繁体字での記入も認めるが、字体の混用は不可とする)。

私は東京で生まれたが、その後父の転勤のため北海道に移り、6年間住んだ。その夏は東京よりずっと涼しく、快適だったが、冬は厳寒で雪も降った。だが、自分は寒さにめげず、スキーやスケートもできるようになった。

小学5年生の時に埼玉県に引っ越した。通った小学校は家から遠くなかった。驚いたのは生徒がとても国際的だったことだ。中国出身の宋君は勉強ができるだけでなく、スポーツも得意で、人気者だった。ミャンマー<sup>1)</sup>出身のキン(Khin)さんは明るくて歌が上手だったが、故郷のことは話したがらなかった。

私は世界のことももっと知りたいと思い、国際科のある中学・高校に進み、英語のほか、中国語も勉強した。来年3月には小学校の同窓会があるそうだ。その時には、英語や中国語で話しかけて、彼らをびっくりさせたいと思っている。

注1) ミャンマー：缅甸(miǎndiàn)